

【森町】
校務 DX 計画

1. 校務のデジタル化

当町の小中学校では令和5年度に校務支援システムを導入し、利活用を進めているが、学習系ネットワーク（インターネット接続系）と隔離された校務系ネットワーク（閉域網）のみで使用可能となっていることから、学習系ネットワークのデータとの連携が出来ない状況となっている。

今後、校務支援システムをインターネット接続経由で利用可能とする対応と併せて、教職員が使用する校務系端末（ノートパソコン）をゼロトラストセキュリティに対応した端末へ入れ替え、校務系と学習系のネットワークの統合を行う。また、インターネット接続系にて校務支援システムを使用するにあたって、教育委員会としての情報セキュリティポリシーの策定と教職員を対象とし、情報リテラシーの向上を図ることを目的としたeラーニングの実施を予定している。

教職員のICT活用能力に個人差があることから、全ての教職員が効果的に活用できるよう、ICT支援員の配置を継続し、授業での一人一台端末の効果的な活用を促進する。

FAXの利用に関しては、町内の学校間ではメールやチャットツールへの移行が進んでいるものの、他市町村の学校、業者、官公庁とのやり取りでは依然として頻繁に使用されている。押印が必要な文書については、内部文書では教職員の休暇処理簿や出勤簿などで依然として押印が求められており、外部とのやり取りでは教職員の私印の押印は減少傾向にあるものの、学校長の職印が必要な文書が多いため、押印の必要な文書は依然として多い。この現状を踏まえ、FAXや押印文書の廃止に向けて、外部機関及び学校と関わりのある事業者に対して、教育委員会から慣行の見直しを依頼するなど、継続的に働きかけを行う。

2. クラウドグループウェアの利活用促進

当町の小中学校において、学習系ネットワーク（インターネット接続系）ではクラウドグループウェアであるMicrosoft365を導入しており、教職員同士のスケジュールや情報のやり取り、児童生徒とのデータ共有をはじめとする利活用が進んでいる。今後も教職員の校務・学習活動の効率化の観点から、クラウドサービスの活用促進のため支援を継続して行う。